

請願・陳情等の受理状況について

平成30年10月10日

ア 向日が丘支援学校の改築とともに寄宿舎の充実・発展を求める要請署名について

向日が丘支援学校の改築を考えるつどい

イ 「京都の定時制・通信制教育を考えるみんなの会」からの申し入れについて

京都の定時制・通信制教育を考えるみんなの会 会長 林 五月

請	願	書	0	件
要	請	書	2	件
	計		2	件



(報 告)

向日が丘支援学校の改築とともに寄宿舍の充実・発展を求める
要請署名について

向日が丘支援学校の改築を考えるつどいから要請書及び署名が提出されましたので、
下記とおり報告します。

平成30年10月10日

教育長 橋本 幸三

記

- 1 提出日 平成30年9月13日
- 2 提出者 向日が丘支援学校の改築を考えるつどい
署名数：4331筆
- 3 要請事項 (1) 老朽化した向日が丘支援学校の校舎改築に一日も早く着工して下さい。その際、障がい当事者・保護者・教職員をはじめ府民の声を聞いてください。
(2) 向日が丘の寄宿舍は子どもたちが毎日の生活を営みながら、生活基盤を整え、仲間とともに学び合い、自立と社会参加に向けた力を養う大切な場です。寄宿舍をなくすことなく充実・発展させて下さい。
(3) 乙訓地域に住む子どもたちに医療・療育・リハビリテーションなどを保障し、障害者権利条約が生きる地域づくりを進めて下さい。



京都府知事 様
教育長 様
府議会議員 様

向日が丘支援学校の改築とともに寄宿舎の充実・発展を求める要請署名

向日が丘支援学校は、肢体不自由養護学校として開校し、50周年を迎えました。今、子どもたち・保護者・教職員がねがい続けた「校舎の改築」が決定されるというニュースが届き、心おどる思いでいます。

また、長岡京市と京都府が「向日が丘共生型地域づくり構想」として、改築される向日が丘支援学校の周りに老人福祉センターや発達障がい児・者の発達相談、地域支援センターなどの障がい児・者福祉サービス施設を建設することが話し合われているとうかがっています。

私たちは、向日が丘支援学校の改築を機に、乙訓の障がいのある子どもたちの教育や生活が今より豊かになるよう願っています。50年を経て老朽化した校舎・寄宿舎を一日も早く最新のものに改築されることを切望しています。寄宿舎には、障がいのある子どもたちが毎日仲間との寝泊まりを行う中で、生活自立の力を育む大切な教育的役割があります。加えて、乙訓地域の障がいのある子どもたちが、生活の立て直しのために緊急一時的に利用できるようにするなど、希望する子どもたちが利用しやすい寄宿舎として改築してください。PTA 寄宿舎部の保護者が実施した寄宿舎に関するアンケートでは、(全校生徒保護者の76%が回答)、73%の人が「寄宿舎は必要である」と回答しています。

障害者権利条約は「みんなちがってみんないい」という多様性や個性が大事にされ、障がいがあっても特別な支援があれば、障がいのない人々と同じように地域社会への参加ができ、いっしょに生きていくことが大切と宣言しています。乙訓地域の障がい児・者が乙訓の地域住民として豊かに生活できるよう条件整備をしてください。

私たちのねがい（要請事項）

1. 老朽化した向日が丘支援学校の校舎改築に一日も早く着工して下さい。その際、障がい当事者・保護者・教職員はじめ府民の声を聞いてください。
2. 向日が丘の寄宿舎は子どもたちが毎日の生活を営みながら、生活基盤を整え、仲間とともに学び合い、自立と社会参加に向けた力を養う大切な場です。寄宿舎をなくすことなく充実・発展させて下さい。
3. 乙訓地域に住む子どもたちに医療・療育・リハビリテーションなどを保障し、障害者権利条約が生きる地域づくりを進めて下さい。

氏 名	住 所

向日が丘支援学校の改築を考えるつどい (連絡先 mukou.kaichiku@gmail.com)

(ご記入頂いた内容は要請署名以外の目的で使用することはありません)

向日が丘支援学校が、数年後に改築されるらしい。

そんなうわさを耳にするようになってから ずいぶんたちますが、
まだまだ わからないことだらけです。

「どんなふうに進めていくの？」

「保護者の声は聞いてもらえるの？」

「福祉施設が併設されるって本当？」

「寄宿舎はこれからどうなるの？」

「共生型地域づくり構想って、なに？」

など、気になることはつきません。

でも、やっぱりねがいはひとつ。

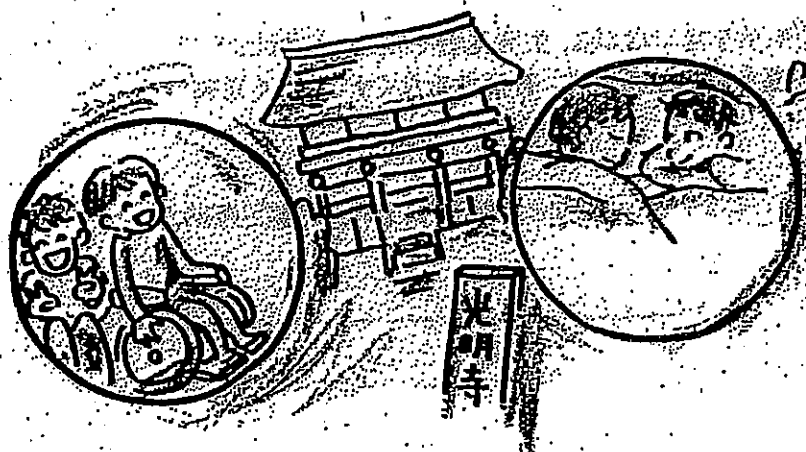
あたらしい向日が丘を、最高の学校にしたい。

「向日が丘支援学校の改築を考えるつどい」は、
改築に関する疑問や要望などをもち寄り、

意見交換し、ねがいを たばねる場です。

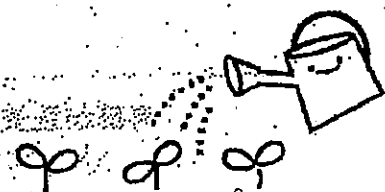
保護者、職員の方、地域の方、そしてもちろん生徒たち。

どなたでも参加いただけます。



これからの学校、そしてこれからの
乙訓の思いを、聞かせてください。

向日が丘支援学校の改築を考えるつどい
世話人 江畑、上田、石井 (向日が丘支援学校 保護者)
mukou.kaichiku@gmail.com



(報告)

「京都の定時制・通信制教育を考えるみんなの会」
からの申し入れについて

「京都の定時制・通信制教育を考えるみんなの会」からの申し入れについて、
下記のとおり報告します。

平成30年10月10日

教育長 橋本 幸三

記

- 1 提出日 平成30年9月25日(火)
- 2 提出者 京都の定時制・通信制教育を考えるみんなの会 会長 林 五月
- 3 申し入れ内容
 - (1) 夜間定時制高校の役割と充実策を明らかにしてください。
 - (2) 私立通信制入学者数が増加する中、朱雀高校通信制の役割を明らかにしてください。
 - (3) 小・中学校で不登校児童・生徒を生まない学校づくりに取り組む上での課題を明らかにしてください。

2018.9.25

京都府教育委員会
教育長 橋本 幸三 様

京都の定時制・通信制教育を考える会

会長



申し入れ書

日頃は京都の定時制・通信制教育充実の為に尽力頂き有難うございます。振り返ってみますと、昭和23年度発足した新制高等学校は、設立当初より定時制や通信制を設置し、後期中等教育の機会均等を保障する上で、大きな役割を果たしてきました。今日でも、家庭の貧困や不登校などから夜間定時制を必要として入学している状況があります。

しかし、志願者の減少を理由に、平成28年度から鴨沂高校定時制は募集停止され、現在の京都市内の公立高校夜間定時制募集定員は府立3校で270人、京都市立2校で80人となっています。今後、さらに縮小されるのではないかと危惧されます。

一方、公立高校夜間定時制や朱雀高校通信制への入学者は減少し、私立通信制高校への入学者が増加しています。近年、私立通信制高校への入学者は、公立高校の夜間定時制入学者や朱雀通信制への入学者を上回り、500名を超えました。こうした現状を教育行政として分析し、後期中等教育保障の視点で課題を明らかにすることが必要ではないでしょうか。

さらに、府下の不登校児童生徒数は、平成27年度小学校554人(千人当たり4.2人)、中学校1.981人(同28.0人)、平成28年度小学校612人(同4.7人)、中学校2.013人(同29.0人)と報告されています。

不登校は、現在の社会状況と学校の在り方が生んだものと考えられますので、小学校は無論のこと、中学校でも不登校生徒を生まない学校づくりこそ大切だと考えています。こうした状況を踏まえて、下記につきましてご回答いただきますよう、お願い申し上げます。

記

1. 夜間定時制高校の役割と充実策を明らかにしてください。
2. 私立通信制入学者数が増加する中、朱雀高校通信制の役割を明らかにしてください。
3. 小・中学校で不登校児童・生徒を生まない学校づくりに取り組む上での課題を明らかにしてください。

以上